

敷島エリアグランドデザイン(案)

2022年2月

群馬県

はじめに

敷島公園エリアのサステイナブル・デザイン。 訪れるすべての人々の健やかな体験と時間を約束する 新しいネイバーフッドとの出会いを創出します。

「わたしたちの日常に欠かせない場所」、「友人を誘ってまた訪れたい場所」という思いをいかに醸成し、継続させていくか。
コミュニティを育み、“自分が自分らしく居られる”場所と時間をいかに創造するか。
その鍵は、地域が有する自然のなかで、健やかに生きるネイバーフッドたちとのつながりだと考えます。
地域の活気ある市民交流こそが、敷島公園全域の機運と熱量を持続させ、
あらたなエモーショナルシナジーを生み出していくのです。

——ウェルビーイング、生きがい、サステイナブル。

まちの魅力を持続的に高めていくことだけでなく、市民からでも事業者からでも地域からでも、
「敷島公園がある前橋って素敵」と思われるような強いコミュニティづくりを目指して、
この不確かな社会の中で、持続する地域マグネットを提案します。

トピックス ①

Beyond 2060。変化が予測できる日本の未来課題

将来推計人口 でみる 2060年の日本

[内閣府ホーム](#) > [内閣府の政策](#) >
[共生社会政策トップ](#) >
[高齢社会対策](#) > [高齢社会白書](#) >

ア 9,000万人を割り込む総人口

イ 2.5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上

ウ 年少人口、出生数とも現在の半分以下に、生産年齢人口は4,418万人に

エ 現役世代1.3人で1人の高齢者を支える社会の到来

オ 男性84.19歳、女性90.93歳まで生きられる

トピックス ②

人生100年時代、SDGs、ポストコロナと並び、
近年グローバルアジェンダとして位置付けられる“**Well-Being**”意識の高まり

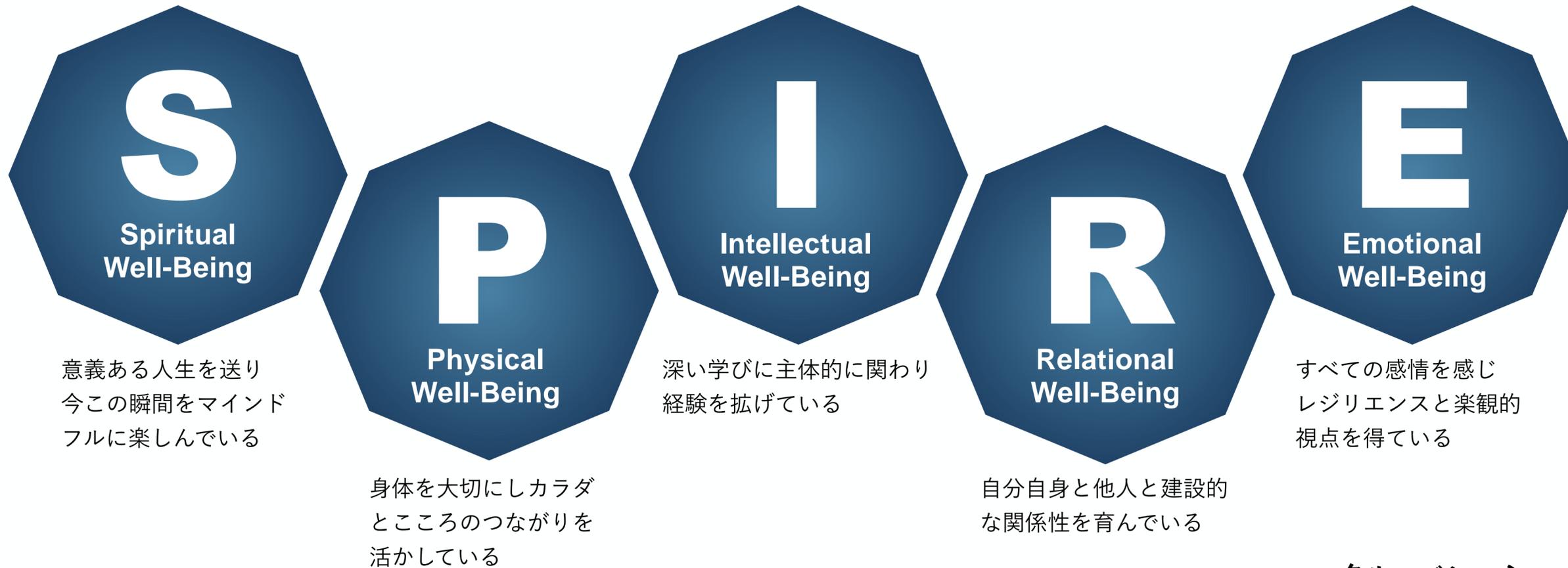


飛鳥新社
「GDW興国論 幸福度世界一の国へ」
下村博文(著)

GDW - 日本経済新聞
<https://well-being.nikkei.com/about>

トピックス ③

“心身ともに良好な状態”を向上させ維持するために、
Well-Beingを維持するための指標が、世界で注目されるように



タル・ベン・シャハー

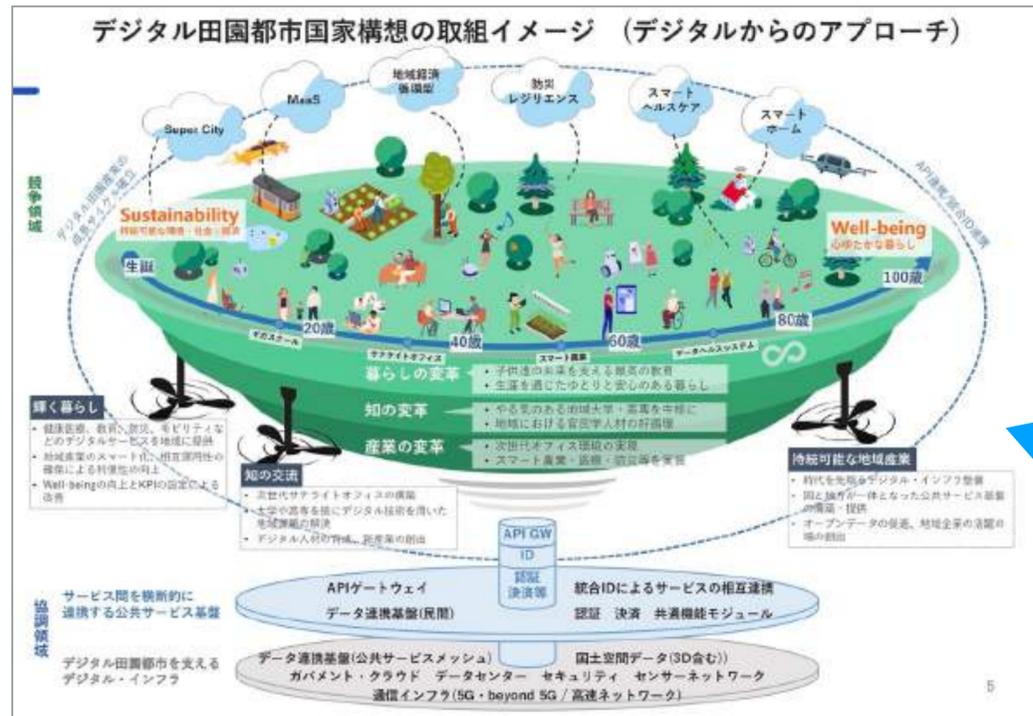
心理学博士、教師、著述家



ハーバード大学で哲学と心理学を学び、組織行動論で博士号を取得。
リーダーシップ開発組織「ポテンシャルライフ」の共同創業者兼チーフ・
ラーニング・オフィサーとしてコンサルタントやゼミを行っている

与件：これからのまちづくりを見据えて

都市間格差の解消と地域活性化を目指す「デジタル田園都市国家構想」 前橋スーパーシティ構想との連動を果たし、地域レジリエンスモデルとして構築



デジタル庁 デジタル田園都市国家構想より



デザインシティ前橋市街、健康促進敷島公園、自然共生赤城山。
好条件な環境や状況に既存基盤を組み合わし、新たな価値を創造する。
潜在ポテンシャルを活かし、差別化が容易かつ発信力の高い全体構想を目指す。

敷島公園エリアのあるべき姿

これからの社会に求められる状況を見据え、いかに時代を示す共感価値を取り込むか。
敷島公園のポテンシャルを最大化し、話題性や満足性を向上するアプローチを考察



自然風景と行き交う人々の日常を感じながら歩く、

訪れるだけで誰もが元気になる場

基本構想：敷島公園エリア

公園の概念を越えた超公園

Shikishima Well-Park

シキシマウェルパーク [敷島公健街区]

まちのウェルネス拠点、シキシマウェルパーク。
自然を感じ、生活者を感じ、今を生きることに感謝できる場所。
訪れる全ての人々の健やかな体験と時間を約束する、世代を越えて愛される公園街区。

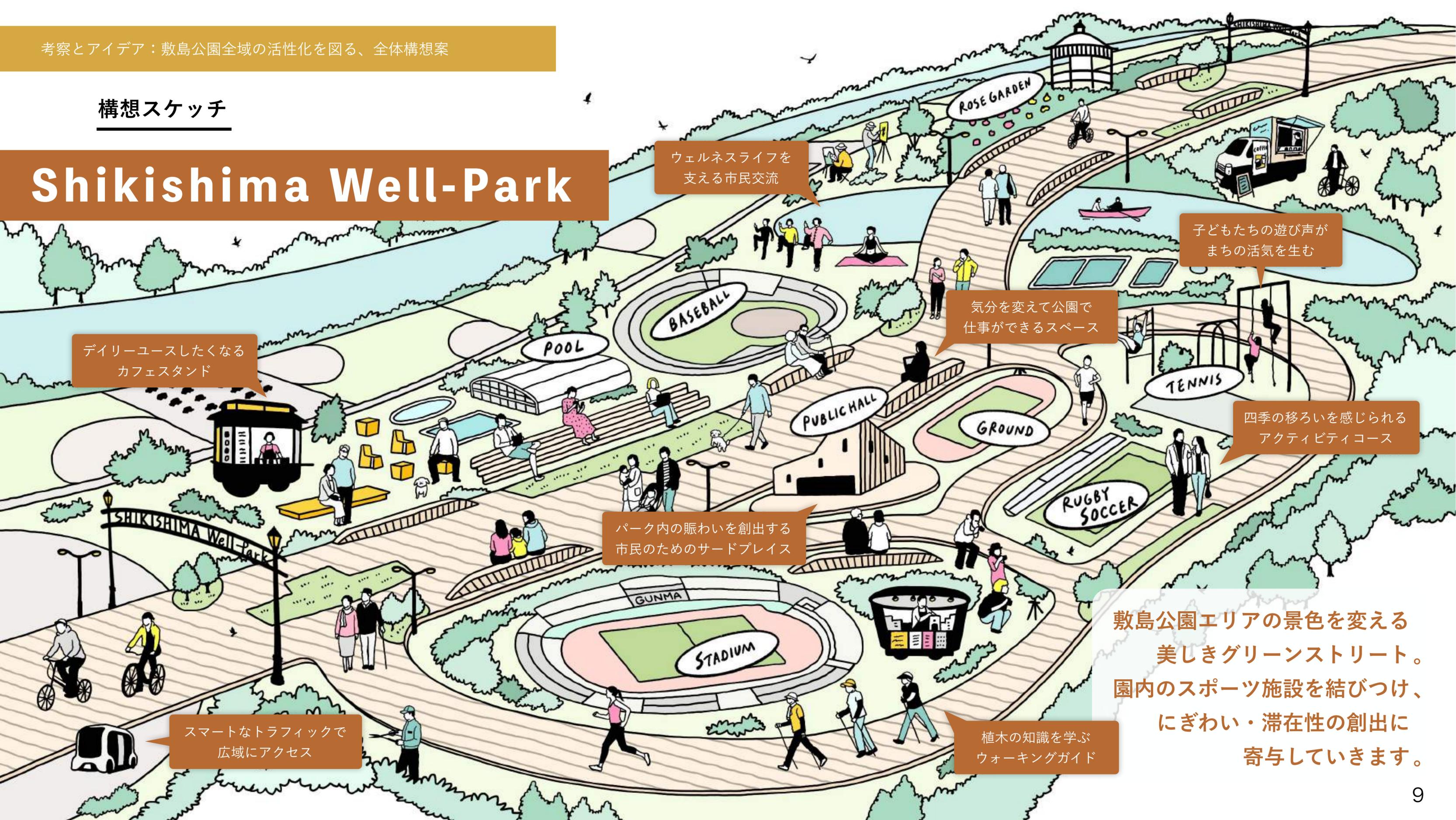
訪れるだけで
こころが
満たされワクワクする
環境デザイン

誰かと出会い
対話が生まれる
交流拠点機能

感動体験が創出する
共感共鳴の
エモーショナル
シナジー

構想スケッチ

Shikishima Well-Park



デイリーユースしたくなる
カフェスタンド

ウェルネスライフを
支える市民交流

子どもたちの遊び声が
まちの活気を生む

気分を変えて公園で
仕事ができるスペース

四季の移ろいを感じられる
アクティビティコース

パーク内の賑わいを創出する
市民のためのサードプレイス

スマートなトラフィックで
広域にアクセス

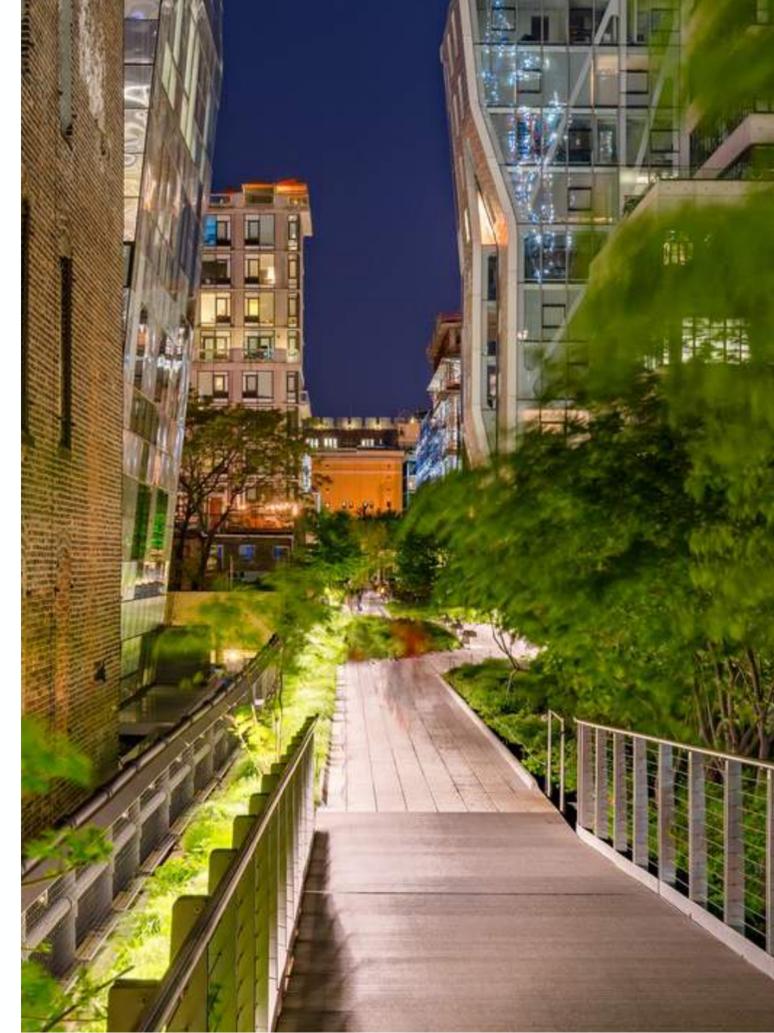
植木の知識を学ぶ
ウォーキングガイド

敷島公園エリアの景色を変える
美しきグリーンストリート。
園内のスポーツ施設を結びつけ、
にぎわい・滞在性の創出に
寄与していきます。

ネイバーフッドプロミス ①

訪れるだけで こころが 満たされワクワクする 環境デザイン

運動する人も、しない人も。
お年寄りも家族も若者も。
それぞれがそれぞれの居心地を
見つけることができる空間とは。
目的があっても、目的がなくても
自然に足が向かってしまう
地域の憩いシンボルがここに。



ネイバーフッドプロミス ②

誰かと出会い 対話が生まれる 交流拠点機能

コミュニティの交流から生まれる
GDW[国内総充実]。

従来の運動公園機能はもとより
地域コミュニティのハブ機能も実装し
様々な世代の好奇心を刺激しながら
世代を超えた交流を生み出していく。



ネイバーフッドプロミス ③

感動体験が創出する 共感共鳴の エモーショナル シナジー

互いを思いやる優しさの連鎖。
コミュニティの安心と信頼が
育まれるプログラムの実践。
自分以外の人々との偶発的な出会いや
温かなふれあいは何歳になっても
枯れることない好奇心を刺激する。



情景から生まれる共創シナジー

ex.パークのシンボルとなる
パブリックアート



ex.ファミリーが集まるプレイパーク



ex.会話が弾む、ずっと居たくなる
パブリックファニチャー



COMMUNITY × NEIGHBORHOOD

ex.エリア分けされた
ラン/ウォークコース



ex.健康アプリと連動した
ランニングコース



ex.距離の目安となるコースサイン



ex.市民交流の拠点となる
サードプレイス



ex.公園を移動できる
スマートモビリティ



事例 ①：ハイライン（アメリカ）

廃線跡を緑の遊歩道に再生し、 地域の価値向上に寄与した空中公園

ハイライン

ニューヨーク・アメリカ



ニューヨーク市にある、高架貨物鉄道の線路跡地を散策路として再生した全長2.3kmの線形公園。建設には「周辺の不動産価値を高め、建設費を上回る経済効果」を実証する調査結果を公表し、設計コンペを行い支援を募った。地道な寄付集めや広報活動が実を結び、著名な俳優や投資家からも大口の寄付を得て資金調達に成功した。

波及効果

- ・公園の知名度とともに周辺地価の上昇
- ・年間500万人の来場者数を誇る
- ・オープン以来、20億円以上の民間投資を呼び込み、約1万2000人の雇用を創出
- ・エリア価値の向上により、周辺にホテル、高級アパート、レストランなどが建設された
- ・魅力的な公共空間がエリア全体の価値を上げることを実証する手本となった



事例 ②：ザ・グッズライン（オーストラリア）

線路跡地を公園機能を組み込み再生した
地域コミュニティ憩いの場

ザ・グッズライン



シドニー・オーストラリア

シドニーで2015年に、元貨物鉄道線路跡地を空中庭園にリニューアルした「ザ・グッズライン」。1kmもない直線の公園だが、園内には子どものための遊具や、円形劇場、大きな共有テーブルや、コワーキングスペース等を設けており、近隣の学生や住民に大人気。活気に満ちたコミュニティ形成の場として、地域に寄与している。



波及効果

- ・wifiを完備しており、園内に設けられている「学習ポッド」でコワーキングも可能
- ・円形劇場では頻繁にイベントを開催。屋外での映画観賞会や、パフォーマンスが多く行われている
- ・バリアフリーの遊歩道のため、誰にでも歩きやすい道となっている
- ・数多くの、文化・教育機関が周辺にあり、緑の中でリフレッシュしたい利用者も多い

事例 ③：キングス・クロス駅（ロンドン）

ターミナル駅をつなぐオープンスペースを再開発
歴史遺産を多様な植物でつなぐ歩道公園

キングス・クロス駅



ロンドン・イギリス

ロンドンの都市再生計画において2011年にオープンしたエリア。多くの歴史的建造物が残る地域を歩行者中心ルートで再構築。公園と広場につながったエリアにはオフィス、美術館、ストア、住宅、学校などの複合的な機能を統合し、運河を中心に造園で多様な植物で訪れる人々に憩いの場を提供。さまざまなイベントも開催され、コミュニティの中心地として成長をつづけている。

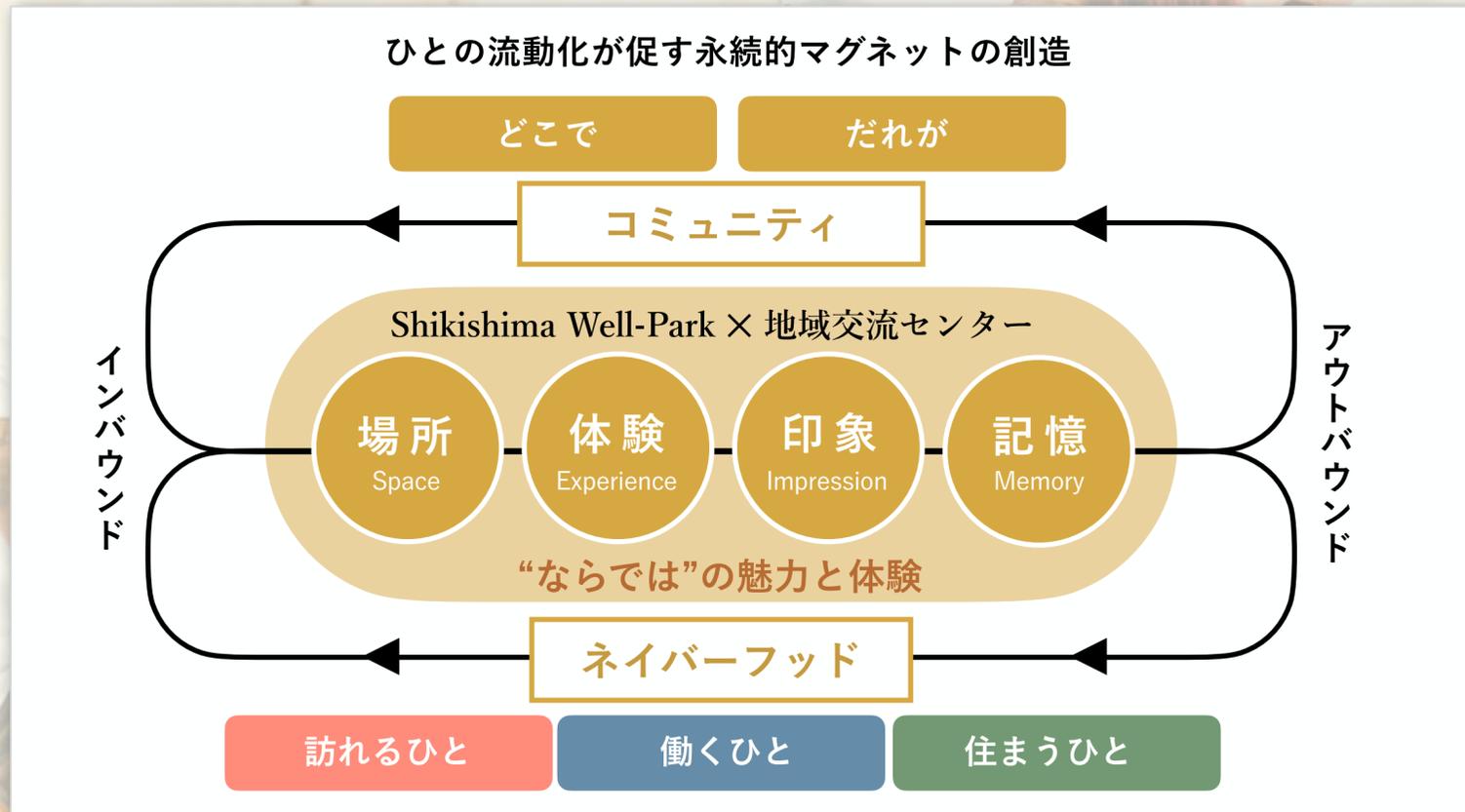


波及効果

- ・持続性の高い植生で構築された緑地は四季を生み出し、来街者が集まるように
- ・歩行者を重視したルートでまちを再構成。公園エリアを生み出し、街を一体化し利便性向上
- ・歴史的建造物と都市機能を融合、まちの文脈を伝える再生は高く評価される
- ・荒廃したエリアを憩いの場に変換し、治安の回復に大きく寄与した

コミュニティ・サードプレイス（地域交流センター）

市民が集うシンボルとなる地域交流センター機能を公園内に展開。
既存施設を公民館的市民交流スペースとして施設不稼働期に流用。
市民発の自発的プログラム活動をサポート、コミュニティの
自主性、参加性、主体性を高め、敷島運動公園の再活性化を図ります。



Shikishima Well-Park × コミュニティ・サードプレイス

コミュニティ・サードプレイス事例 ①：延岡エンクロス（宮崎）

地域の“縁”を繋ぎ合わせるコミュニティ創造の場

延岡市駅前複合施設

エンクロス

 延岡市 / 宮崎県

2018年に宮崎県延岡市に誕生。CCCが手がける地域活性化を目的とした市民活動プラットフォーム。公共施設を利用したコミュニティ形成を図り、市民やスタッフによる活動が月間約70件開かれるなど、まちの賑わいを活性化することに寄与。

2020年度 グッドデザイン賞
公共の建築・空間部門 金賞受賞
(経済産業大臣賞)



所在地：宮崎県延岡市幸町3丁目4266番地5
敷地面積：8,878.69㎡
延床面積：1,659.54㎡ 竣工年：2018年
設計：有限会社乾久美子建築設計事務所

波及効果 延岡市人口：約11,7万人（2021年10月1日現在）

来館者数 **約120万人** まち通行量、駅乗降客数↗

市民活動開催数 **約800件** (2~3件/day)

市民活動参加者 **1.4万人**

※2018.4-2019.3



コミュニティ・サードプレイス事例 ②：マルタス（香川）

丸亀市の住民を支援するまちづくり拠点

丸亀市市民交流活動センター マルタス 丸亀市 / 香川県



2021年3月に香川県丸亀市に誕生。CCCが手がけた『マルタス』は、未来の丸亀を担う一人ひとりの「一歩」を支援するまちづくりの拠点施設。「BOOK&CAFÉ」をはじめ、学習スペースや貸会議室、多目的ホールを完備し、市民の生活に新しい発見や気づきを提供している。

2021年3月22日
OPEN



所在地：香川県丸亀市大手町二丁目1番1他
(丸亀市民会館等跡地)
敷地面積：9167.74㎡
延床面積：16366.42㎡
開業：2021年3月22日

波及効果 丸亀市人口：約10,9万人（2021年10月1日現在）

来館者数 開館1カ月間
約7.9万人 1日平均2,573名

市民活動 相談件数 開館1カ月間
約111件 1日平均3.6件

※2021.3-2021.4



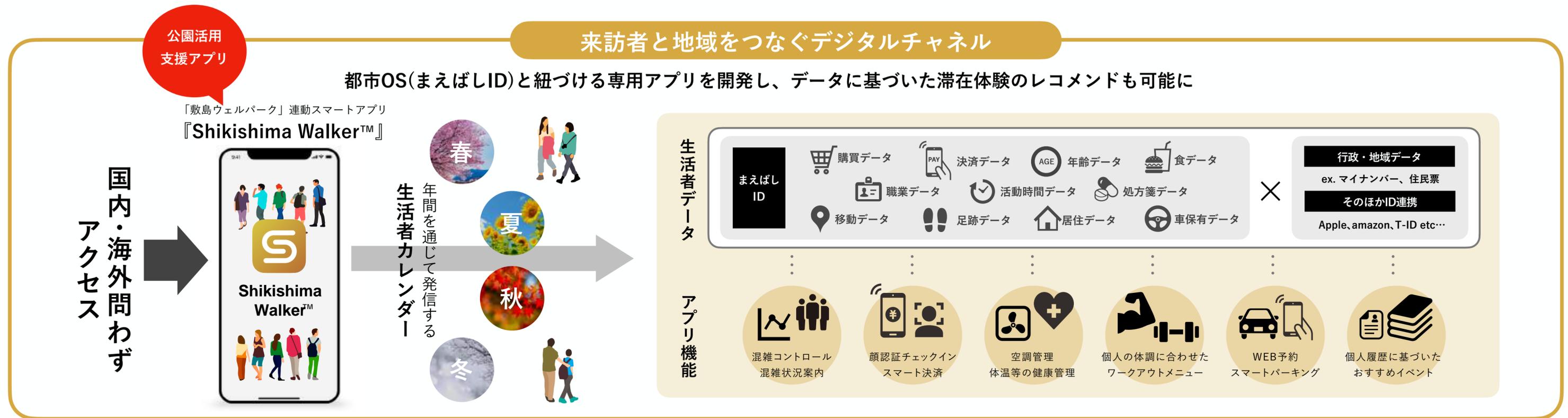
スマート文化経済圏の創造

地域と市民がともにデータを育み、価値還元を生み出す拡張型プラットフォーム。「個人のライフスタイル」と、それを取り巻く「社会」をむすび、テクノロジーとアイデアで価値ある「情報」に磨きあげ、社会に届けることで新しい喜びを提案します。

オプトイン率増
(市民参加)

ID連携による
地域データの
完全可視化

属性に応じた
観光シナリオの
提案が可能に



Shikishima Well-Park × コンテクトマーケティングによる地域活性

創造スキーム：循環型自立生活圏思想

敷島公園エリア循環型自律生活圏

交流から関係へ。地域の知見を活かしたコミュニティ醸成。

人的潜在ポテンシャルを引き出すアップサイクルが地域の活性化と新たな雇用や就労機会を生み出していく。

自然と人とが有機的に交わり変化し続けることで既存環境を「なくてはならない場所」として循環型自律経済基盤化させる。



リアル行動に基づいたデータフィードバック

